

週刊 武四郎

第21号

2018年(平成30年)8月29日(水)
発行・松阪市

●毎月第五週は、
松浦武四郎のよもやま話についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

今に残る 武四郎関連の江戸の老舗

武四郎さんは伊勢に生まれ、北海道を探検しましたが、もっとも長く暮らしたのは江戸でした。

今回は八月の五週目にあたるので番外篇として、東京に今も残る武四郎さんとうっすら関わりのある老舗をご紹介します。まじょう。

集合場所だったのですが、この水竹の妻が、のちに武四郎さんの妻になるのです



▲あんかけ豆腐

◎根ぎし 笹乃雪 (台東区根岸)
江戸で最初に絹ごし豆腐をはじめた店といわれています。弘化三(一八四六)年、二回目の蝦夷地探検に出発する前に、武四郎さんはこの店で尾藤水竹などの友人たちに壮行会を開いてもらっています。この時、笹乃雪の近くに住んでいた水竹の家が



▲「江戸名所 百人美女」のおとよと桜餅



から縁は不思議なものです。◎長命寺の桜餅 (墨田区向島)
前回ご紹介した三浦乾也の窯がこの長命寺にあったといわれています(乾也の顕彰板も店の脇に建っています)。余談ですが、この桜餅屋さんは美女の家系で、江戸百美人の一枚絵になった娘もいるほど……その娘が時の老中阿部正弘に見初められて寵愛を受けたという記録がありま

すから、もしかしたら乾也が阿部の命を受けて長崎に造船技術の研修に行った裏には、何か関係があったかもしれません。

『武四郎涅槃図』には、ここで売っているへとんだりはねたりやずぼんぼが描かれています。ずぼんぼは、蛭貝を足先に付けた玩具で、両方とも昔は浅草



▲助六のショップカード

◎助六 (浅草仲見世)
仲見世にある江戸玩具の店。『武四郎涅槃図』には、ここで売っているへとんだりはねたりやずぼんぼが描かれています。ずぼんぼは、蛭貝を足先に付けた玩具で、両方とも昔は浅草



▲言問団子

◎言問団子 (墨田区向島)
長命寺のすぐ近くに言問団子という名代のお団子屋さんがあります。明治の頃、この団子皿は乾也が焼いていたので、現在も都鳥とくこととひくと描かれた皿を見ることができます。



▲武四郎涅槃図に描かれている「ずぼんぼ」

寺の境内で売られていたものでした。武四郎さんがなぜ涅槃図にこれらの江戸玩具を描かせたのかわかりませんが……。武四郎さんが暖簾をくぐった店が今もあるというだけでも驚きですが、それぞれが名店だけに、その味や品には江戸の匂いが残っています。

松浦武四郎 (1818 ~ 1888)
三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

